

(社)日本心理学会認定「認定心理士」

本学が定めた認定心理士資格取得のためのカリキュラムに基づき、規定の単位を履修した学生は、卒業後に所定の申請手続きを行うことで資格を取得することができます。

1. 認定の領域（認定されるために必要な取得単位数）

- a 心理学概論（4単位以上）
 - b 心理学研究法（4単位以上） ※
 - c 心理学実験（3単位以上） ※
 - d 知覚心理学・学習心理学
 - e 比較心理学・生理心理学
 - f 教育心理学・発達心理学
 - g 臨床心理学・人格心理学
 - h 社会心理学・産業心理学
 - i その他（心理学の卒業研究）
- 5領域中3領域で各4単位以上。
かつ5領域合計が16単位以上。

※印＝申請時に「受講年度のシラバスのコピー」が必要

2. 「基本主題科目」と「副次主題科目」

認定心理士資格取得にあたって、本学の科目が「基本主題科目」と「副次主題科目」に分けられます。その際、以下の点に留意して履修するようにしてください。

◎「基本主題科目」：本学の単位がそのまま認められる（2単位）

◎「副次主題科目」：本学の単位の2分の1が認められる（1単位）

「副次主題科目」は、次の履修科目整理表の太字の科目となっています。

※ここ数年、とくに「基礎科目A・B・C」の領域について認定単位の不足者が出ていますので、これらの領域については多めに履修してください。

3. 本学で履修できる科目

次の「履修科目整理表」に記載

4. 修得の目安と修得すべき単位数

次の「履修科目整理表」に記載

5. 次の「履修科目整理表」に記入して確認する

- ① 今までに履修した科目、今年度履修予定科目に分けて○印（または単位数）を記入する
- ② 各領域でそれぞれの合計単位数を下の太枠内の記入欄に記入する
- ③ 下の太枠内の「修得すべき単位数」を確認して、履修科目を調整する（下部の注意書きも必ず考慮して調整すること）

(社)日本心理学会認定「認定心理士」 履修科目整理表

認定の領域		科目名	認定単位	既修	履修	修得の目安	
基礎科目	a	1年：心理学	2			aとb領域は各4単位以上、c領域は3単位以上、かつ合計で12単位以上になること。	
		1年：行動科学概論	2				
		3年：教育心理学 注1	2				
	b	2年：心理学統計法Ⅰ	2				
		3年：心理学統計法Ⅱ	2				
		3年： 心理査定法 注1	1				
		3年：心理測定法	2				
	c	3年：心理学研究法	2				
		2年：心理学実験・実習 注3	2				
		2年： 発達アセスメント	1				
		3年： 心理査定法 注1	1				
選択科目	d	2年：認知心理学	2			d～hの5領域中3領域で各4単位以上で、なおかつ5領域合計が16単位以上になること。	
		3年：学習心理学	2				
	e	1年：神経心理学	2				
		2年：生理心理学	2				
	f	1年：乳幼児臨床心理学 注1	2				
		1年：児童心理学	2				
		2年：青年心理学	2				
		3年：教育心理学 注1	2				
	g	1年：障害児発達援助論	2				
		1年：乳幼児臨床心理学 注1	2				
		2年：臨床心理学	2				
		2年：発達障害者の心理	2				
		2年：発達障害者の適応援助	2				
		2年：カウンセリング	2				
		3年：精神分析学	2				
		3年：発達援助の技法	2				
		2年：人格心理学	2				
		3年：非行犯罪心理学	2				
			3年：コミュニケーション障害者の適応援助	2			
	h	社会・産業心理学	3年：社会心理学	2			
他	i	その他の科目	4年：卒業研究（心理学の内容） 注4	4			

現在履修している単位数										
今年度履修する単位数										
修得すべき単位数 (太字科目は大学の履修単位の2分の1の単位で換算)	aとb領域は各4単位以上、c領域は3単位以上、かつ合計で12単位以上になること。			d～hの5領域中3領域で各4単位以上で、なおかつ5領域合計が16単位以上になること。					卒研は4単位	36単位以上になること。
認定の領域	基礎 a	基礎 b	基礎 c	基礎 d	基礎 e	基礎 f	基礎 g	基礎 h	基礎 i	総計

- (注1) 同一科目は、どちらか不足している領域を1つ選択して単位数をおぎなうこと
- (注2) 太字の科目の申請時の認定単位は、「大学の履修単位の2分の1」となるので十分注意すること
- (注3) 領域cのうち、科目「心理学実験・実習」は必ず履修すること
- (注4) 領域iの「卒業研究」の内容が心理学に関わらない内容であっても、例えば科目数の多い領域gの科目で認定単位数総数を補うことができる(「卒業研究」は資格取得において必修ではない)